バリアフリー

バリアフリーとは?

生活の中で不便と感じること、様々な活動をしようとする時に障害になっていることをなくす

ユニバーサルデザイン

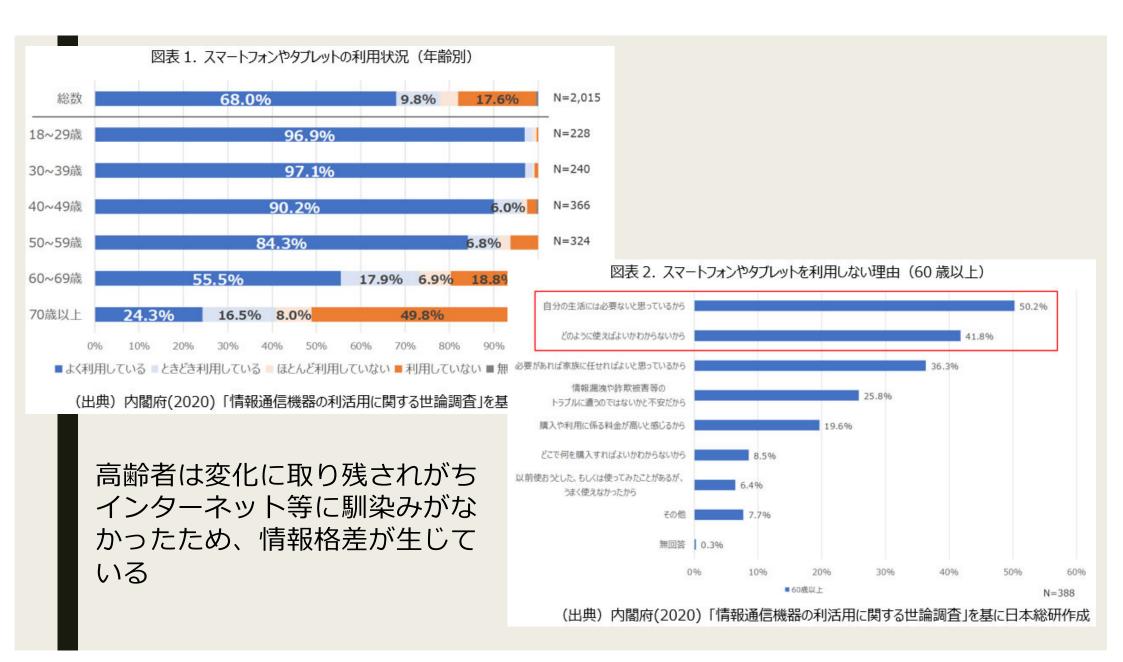
年齢、性別、文化、身体の状況等、人々が持つ様々な個性や違いにかかわらず、 最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会にするようサービス等を提供する こと

例 多目的トイレ、点字、図記号(ピクトグラム)、スロープ

情報バリアフリーとは

すべての人が必要な情報を適時に、かつ、適切に入手できる状態

高齢者や障がい者、外国人などでこうした情報を得ることが困難な人に対して、相手方の障害特性を踏まえ、その人に合った手段・方法で情報を伝えることが重要



高齢者の悩み

■ デジタル機器の操作に難がある

「どのボタンを押せばいいのかわからない」「説明書を読んでも理解できない」 →我々が当たり前に思っていることでも、不慣れな高齢者にとって、理解し、記憶する のは多くの時間が必要

■ 正しい情報の判別が難しい

迷惑メールや怪しいWEBサイト等の不審な情報を見分ける、対策するのが難しい

■ WEBサイトのデザインがわかりにくい

若者向けのデザインが高齢者にはわかりにくくなっていることがある

例 デザイン性を優先することにより、文字が小さくなる

操作性がわかりにくい

解決法

■ らくらくスマートフォン

「らくらくタッチ」(標準モード): 基本機能を分かりやすく配置し、操作ミスが少ない

「スマホかんたんモード」: 一般的なスマホのように使える 使い方動画、専用電話による相談、詐欺・迷惑メール対策機能付

■ WEBデザインを分かりやすく 情報の量を調節する、見やすいテキスト・大きさ・色



<障がいのある方々のインターネット利用率(平成24年)>

	インターネットを利用している
視覚障害者	91.7%
<u>聴覚障害</u> 者	93.4%
<u>肢体不自由</u> 者	82.7%
障がい者全体	53.0%

出所:総務省情報通信政策研究所<u>「障がいのある方々のインターネット等の利用に関する調査研究/結果概要/」</u>(平成24年1月~3月実施)

障がい者の悩み

- 視覚障害: (弱視) 文字サイズの変更ができないと見ることができない
 - →変更することで画面全体が見ずらくなることもある

(色覚障害) 色の判別ができないため、色を使ったナビゲーションが理解できない

- 聴覚障害: BGMや効果音が聞こえないため、字幕が必要 手話を使っている人は難しい文字表現が理解できない
- 肢体不自由:人により個人差はあるが、1ページに含まれるリンク数が多いと目的のリンク先にたどり着くのに大変な労力と時間が必要
- 知的障害:全般に文字で提供された情報が十分に理解できないケースが多い
- ▶ 視覚に頼ったタッチパネル式のみの操作盤
- 音声のみのアナウンス
- ▶ 点字、手話通訳が無い
- ▶ わかりにくい案内や難しい言葉

解決法

■ 視覚障害:読み上げ機能、拡大表示機能、点字表示機能

■ 聴覚障害:音声情報を文字情報に変換する「音声認識技術」

音声→電子メール

- 肢体不自由:キーボードの設定変更、特殊な入力装置(音声入力機能、視線入力等)、支援ソフト
- 知的障害:文字だけでなく、内容をイラストにしたり、音声でも提供できるようにする
- 手話通訳派遣サービス、遠隔手話通訳サービス

まとめ

■ 高齢者も障がい者も多くの人たちがインターネットを利用している

■ 多くの人がより充実し、正しい情報を得るために、もっと多くのインターネット機器や機能が増えると良い

参考文献

- 高齢者のデジタル・ディバイド問題の現状と、自治体の今後の取り組みの方向性示唆 | 日本総研 (jri.co.jp)
- ドコモ らくらくホン・あんしんスマホ | 製品 | NTTドコモ (docomo.ne.jp)
- 「高齢者のためのデザイン」ってなんだ?気を付けたい5つのポイント コムデザ わかりやすいコミュニケーションをデザインする (toyobijutsu-prt.co.jp)
- 障害者によるインターネットの利用率: NICT
- 障害者・高齢者がウェブを利用するときの問題:みんなのウェブ (nict.go.jp)
- <u>ダイナグラス AIを活用した視覚障がい者用ウェアラブル端末</u> (digitalattendant.co.jp)